

「社会健康医学」基本構想検討委員会（第1回）会議録（議事要旨）

日 時	平成28年5月25日（水）午前10時から午前11時45分まで
場 所	ホテルアソシア静岡15階「ベラビスタ」
出席者 職・氏名	出席委員：10名（敬称略） 本庶佑、佐古伊康、田中一成、鶴田憲一、徳永宏司、中山健夫、宮田裕章、宮地良樹、望月律子、山本清二 欠席委員：1名（敬称略） 山本敏博 事務局 健康福祉部長 山口重則 健康福祉部部長代理 渡瀬浩 健康福祉部理事 壁下敏弘 健康福祉部管理局長 鈴木宙志 ほか健康福祉部職員
議 題	1 「社会健康医学」基本構想検討委員会について 2 静岡県の健康寿命を取り巻く状況・取組等について 3 社会健康医学の研究推進について
配布資料	議事次第 資料1 「社会健康医学」基本構想検討委員会設置要綱 資料2 「社会健康医学」基本構想検討委員会委員名簿 資料3 「社会健康医学」基本構想検討委員会のスケジュールについて 資料4 健康寿命日本一の“ふじのくに”の実現に向けた社会健康医学研究の推進 資料4-2 「社会健康医学」基本構想検討委員会の主旨 資料5 静岡県の健康寿命を取り巻く状況・取組等について（事務局説明資料） 参考資料1 「社会健康医学」基本構想検討委員会開催に寄せて（山本敏博委員提出） 参考資料2 特定健診データ分析

1 審議事項

- (1) 静岡県の健康施策について
- (2) 静岡県が今後取り組むべき施策等について
- (3) まとめ

2 審議内容

山口健康福祉部長から、静岡県の健康寿命、疾病・死因、高齢化・医療費等に関する状況、健康づくり事業、ふじのくに型人生区分、健康寿命の要因、今後の健康寿命について、資料5に基づき説明した後、各委員による議論を行った。

(1) 静岡県の健康施策について

- ・ふじのくに型人生区分の「高齢者を支えられる側から支える側へ」という視点は素晴らしい。

- ・ 特定健診データの「見える化」は全国的にも先進的な取組。分析結果は全国のモデルとなる。今後、より科学的な分析をすべきである。
- (2) 静岡県が今後取り組むべき施策等について
- ・ 近年のテクノロジーや人材育成手法の進歩は、めざましいものがある。国においても、医療系のデータを繋げて活用する取組が進んでおり、静岡県もこれらを取り入れ、健康長寿施策を強化すべき。
 - ・ 社会健康医学は、病気を治す学問ではなく、病気にならないようにする学問。これからの時代、医師は患者が病気になる前から介入し、病気にならない予防医学に取り組む必要がある。
 - ・ 長生きすればよいとの発想がこれまでの医学だが、予防が大切だと医師等の意識を変える必要がある。色々なデータはあるが、分析する人がいない。これを何とかすべき。
 - ・ 最期まで元気で健康に暮らしたいという県民の願いを叶えられる医師をどのように育てていくべきか、検討する必要がある。
 - ・ 健康長寿の延伸には科学的、基礎的な研究が必要。その中でも有効なコホート研究には、きっちりしたデータの蓄積が不可欠。
 - ・ 疫学研究は、「時」「場所」「人」の視点でデータを蓄積し、分析する。このような素地（拠点）ができると、疫学を使って様々なことが分かる。
 - ・ お茶の効能と脳卒中の関係など、科学的な研究を進めれば、健康長寿施策への反映や、静岡県の強みを全国にアピールすることができる。
- (3) まとめ
- ・ 行政、医療関係者、県民本人それぞれに、これからは予防医学を含めた県民1人1人の生涯の健康管理という視点が必要。
 - ・ これらにより県民が生涯健康で幸せに暮らせる環境の確保等を目指し科学的な裏付けをして具体的な施策を打ち出すために議論していく。
 - ・ 科学的知見、データの活用、施策の情報発信が大切である。